

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	33 / 2013 / 53 - 55 (再編集版)
タイトル	2013年、青高サクラ異変!?
著 者 名	編集部

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

2013年、青高サクラ異変!?

編 集 部

5月26日に横浜在住の天内康夫さんから「ことしの青高サクラは咲かなかったというが本当か？」というメールが入った。母校のサクラは、歴史をひもとくと第八師団青森歩兵五連隊当時からのサクラの名所である。いままで咲かなかったという歴史的な記述は見当たらない。”これは大変”という県外在住のかたがたにはビックリ仰天のことである。

ことし2013年は冬場の大雪から4、5月の記録的な低温で確かに青森県への前線北上は記録的な遅さで、その花付きの状況は貧相そのものであった。このような意味合いからも、天内さんのメールと、それに対する会員の返信内容をここに留めておくことは無意味なことではないだろう。

天内康夫会員のメール(5月26日)

よこはま・天内です。ご無沙汰ばかりです。過日はやぶなべ第32号受領のお礼も申し遅れていました、失礼申し上げました。在青の皆さんのご活躍、ことに会報編集委員の皆さまのご努力には心から感謝しております。

青高生物部の復活は、去年のビッグニュースでしたが、今年も森の広場の観察会に5名ほどが出て来てくれたとか。心強い限りです。今後とも後輩のお世話、ご指導の方を、よろしくお願いいたします。

さて、先日5月18日でしたが東京・上野で、東京青高同窓会の総会があり、沢住庸宏氏や田辺良子さんと久しぶりで会いました。その席上、小川伸悦現校長のあいさつの中に、「キャンパスの桜が今年は咲かなかった」という話が出てタマゲました。連休に法事があって帰省し、合浦公園の二分咲きの桜にがっかりして帰宅したところでしたが、当然ながら遅れても咲いただろうと信じていました。それがナント、開花しなかった!! あるんですねえ、こんなことが。

青高キャンパスがこの春、ピンポイントで「天保の大飢饉」の異常気象だった!とでもいうのでしょうか。私が青森滞在中に覗いた雲谷高原はカタクリが未開花、浅虫はカタクリこそ咲いていましたが、期待していたヒメギフチョウには会えずじまいでした。

桜の咲く寸前、1週間ほどしか出現しないギフチョウ達は、カタクリやエンゴサク、キクザキイチリンソウなどを吸蜜・花粉媒介して生を終えますが、はたして異常気象の中でうまく羽化を果たせたのだろうか…、それよりもスプリングエフェメラル達がちゃんと種子を実らせたのだろうか…などと心配しています。

やぶなべの皆さんには、どうか来春以降の春の女神たちの様子を見守っていただきたく、お願い申し上げます。

室谷洋司会員の返信メール(5月26日)

5月上旬の青森訪問、お疲れさまでした。ご覧のようにビックリするような遅い北国の春でした。

5月18日の御地での東京会、小川現校長のサクラ報告について、科学的に理解すれば良いのか、あるいは文学的に耳を傾ければ良いのか、小生もとまどっております。



a(左)とb(右): 2008年4月22日撮影。青高サクラ満開!

ここに4枚の写真をお送りします。aとbは2008年4月22日の青高サクラです。この日、最高の見ごろではないかと記録しました。光も最高でした。cとdは、ことし2013年5月9日の青高サクラです。前線北上の遅れで、いつなのかとずっと気にしていました。天気もパツとしませんでした。ようやく5月9日にチャンス到来です。



c(左)とd(右): 2013年5月9日。ようやく満開、生き延びようというたくましが!

このような状態は、小生も経験はありません。合浦公園も桜川の桜も同様でした。しかし、けな気にも一生懸命咲いています。ポツンポツンと5月4、5日から、咲けるものから咲いていったようです。

樹の生理上、もはや葉っぱも出さないと大変なことになります。そういうことから、一気に噴き出すような咲き方ではなく、咲けるものから、また葉々も遅れじといった桜木の苦悩が、このような状況を見せたのだと見ております。

2008年に青高東京会が寄贈したサクラ10本は、昨年おそく西側に植えたものを東側に移植しました。これはそのような事情もあって花付はポツンポツンだったようです。でも咲きました。

ことしの観察会では、おっしゃるとおり青高生物部の5人が参加、はつらつとした行動が微笑ましく思いました。「観察会参加の記」の寄稿もいただいております。

浅虫のヒメギフチョウは、南に面した斜面で、4月15日頃に3個体が確認されています。小生自身、県内の方々を歩きましたが、残念ながら目に触れることはありませんでした。しかし、気温など良好なときでないと成虫は飛びません。瞬時でもそのような隙間があれば羽化し交尾し産卵します。あまり目立つことはないのですが、最小限の彼らの義務は果たしているはずです。春の妖精たちは、別な見方をすれば過酷な自然にさらされております。

五十嵐正俊会員の返信メール(5月26日)

今年のサクラ前線が停滞前線になって、青森に到着したのはずいぶん遅れました。そして例年ですと花が散ってから葉が出るのですが、今年は葉と花が同時でした。さらに花の密度が少なかったのも、非常にみすばらしい開花になって仕舞った様です。

何年か前に盛岡で花が咲いてから低温続きで、花が散らずにしだいに色がこくなっていたのを記憶しています。多分今年の様にサクラ前線が盛岡付近に停滞して今年の様な現象が起きていたのでしょう。

葉芽の方が花芽ほどに低温の影響を受けないので今年の様に葉と花が同時と言う現象になったのではないのでしょうか?しかし、「ソメイヨシノ」以外のサクラでは葉と花が同時と言う現象は無かったように見えました。今満開の八重桜は見事に咲いています。

棟方啓爾会員の返信メール(5月26日)

遅ればせながら、ヒメギフチョウと青高のサクラについて。

ヒメギフチョウは、今年は一頭体も会っておりません。毎年数個体は、確認していますので今年は特異です。

青高のサクラは、今年は明らかに異常でした。筒井在住の徳差君とも話していたのですが、気象条件もあるでしょうが、鶯(ウソ)の食害も見逃せないと思います。

弘前公園でも、鶯(ウソ)の食害が極端に多い年だったと小林樹木医が話しておりました。

天内康夫会員のメール(5月27日)

早速のふるさと発・さくら情報を有難うございました。室谷さんの証拠写真で、母校キャンパスの桜もしかるべく咲いてくれたとわかり、ホッとひと安心したところです。小川校長は、少し文学的に?表現してしまい、私の方も大げさに受け取り過ぎたのでしょう。観察は丁寧に、データや証拠もきちんと添えて…が大事でしたね。反省!

梅の開花が桜のあとになりそうだとかも聞きましたが、彼らの感受性にも微妙な差があるようで、これで太古から生きてきたのですから、彼らの生き方を信頼してもいいのでしょう。人間の主食が桜の花びらでなくて幸せでした。北辺のヒメギフチョウにも頑張ってもらいましょう。